

鋼製起伏ゲート設計要領（案）正誤表（第3刷，第4刷用）

ページ	行数		誤（現行）	正	正誤表 作成年月
	上から	下から			
168	14行目		したがって、損失圧力の算定にあたって油圧シリンダの無負荷作動圧力は、本図から読み取るものとする。	しかしながら、油圧シリンダの無負荷作動圧力は、圧力供給方向、パッキン形状・枚数、使用圧力等により図4.2.3-1に示す値より大きくなることもあるため、損失圧力の算定に使用する無負荷作動圧力は、実状にあった無負荷作動圧力を検討し、設定するものとする。	H28.1
196	式(4.2.10-9)		$\sigma_{cc} = \frac{W}{2 \cdot b \cdot d}$	$\sigma_{cc} = \frac{W}{2 \cdot c \cdot d}$	H25.9
198	式(4.2.10-11)		$L_2 = \frac{1}{\beta} \sqrt{b_1 \cdot c_1 \cdot p}$	$L_2 = \frac{1}{\beta} \sqrt{b_1 - c_1 \cdot p}$	H24.12
231	8. 主ローラ記号の説明		P: ローラの作用荷重 794.093kN	P: ローラの作用荷重 (削除)	H28.1
231	P: ローラの作用荷重の次行に挿入		$P = \frac{R_a}{\cos \alpha} = \frac{760.358}{\cos 5^\circ} = 763.262kN$ <p>R_a: 縦桁における上部主桁の作用荷重(P228 参照)</p> <p>α: 倒伏角 60° の扉体法線と油圧シリンダのなす角度(P228 参照)</p>		H28.1
297		7行目	$P_m = 1 \frac{4.0 \times 10^6 \times 1.07 \times 10^{-4}}{0.7} \dots$	$P_m = \frac{14.0 \times 10^6 \times 1.07 \times 10^{-4}}{0.7} \dots$	H28.1